

◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数が3.22(132例)で、先週に比べ増加しています。年齢階級別では1歳(25例)、2歳(19例)、6～11箇月(16例)の順に多く、6箇月～2歳が45.5%(60例)となっています。
- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.29(12例)で、第33週(8月16日～8月22日)以降連続して過去5年平均値を上回っています。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.05(2例)で、第34週(8月23日～8月29日)以降連続して報告があります。全国では定点当たり報告数が、0.25で、過去5年平均値(0.12)を上回り、例年より早く増加しています。

◆ 今週のトピックス: <流行性耳下腺炎>

流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、1.39(57例)で、過去5年平均値を大きく上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 1例(肺結核 なし, 肺外結核 1例, 潜在性結核感染者 なし), (喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 246例(肺結核 156例, 肺外結核 63例, 潜在性結核感染者 27例), (喀痰塗抹陽性 70例)】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.22	132
	② 流行性耳下腺炎	1.39	57
	③ ヘルパンギーナ	0.44	18
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.34	14
	④ 手足口病	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

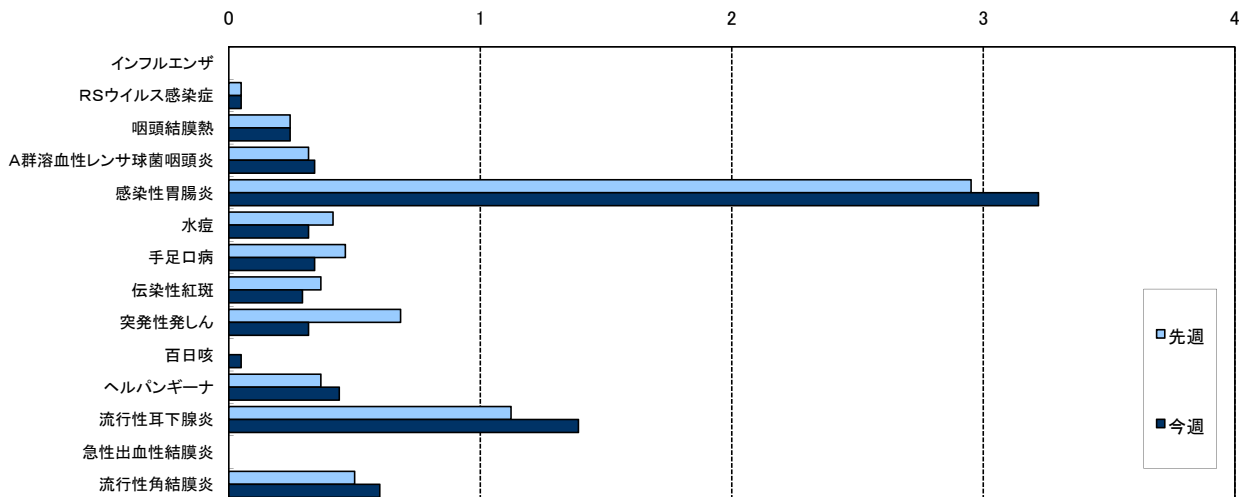
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <流行性耳下腺炎>

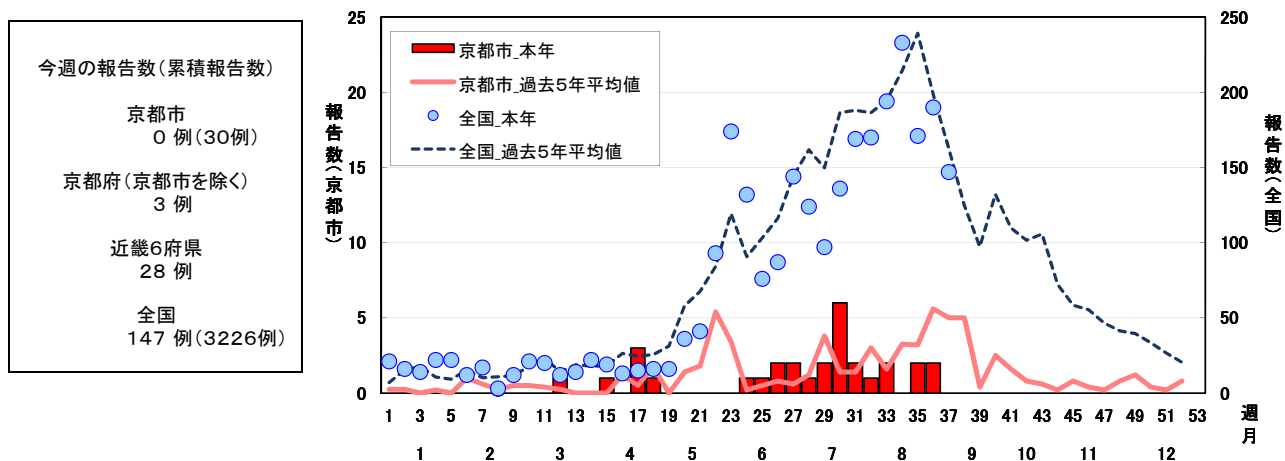
(注) 京都市のデータは、平成22年9月24日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第37週)と先週(第36週)の定点当たり報告数の比較

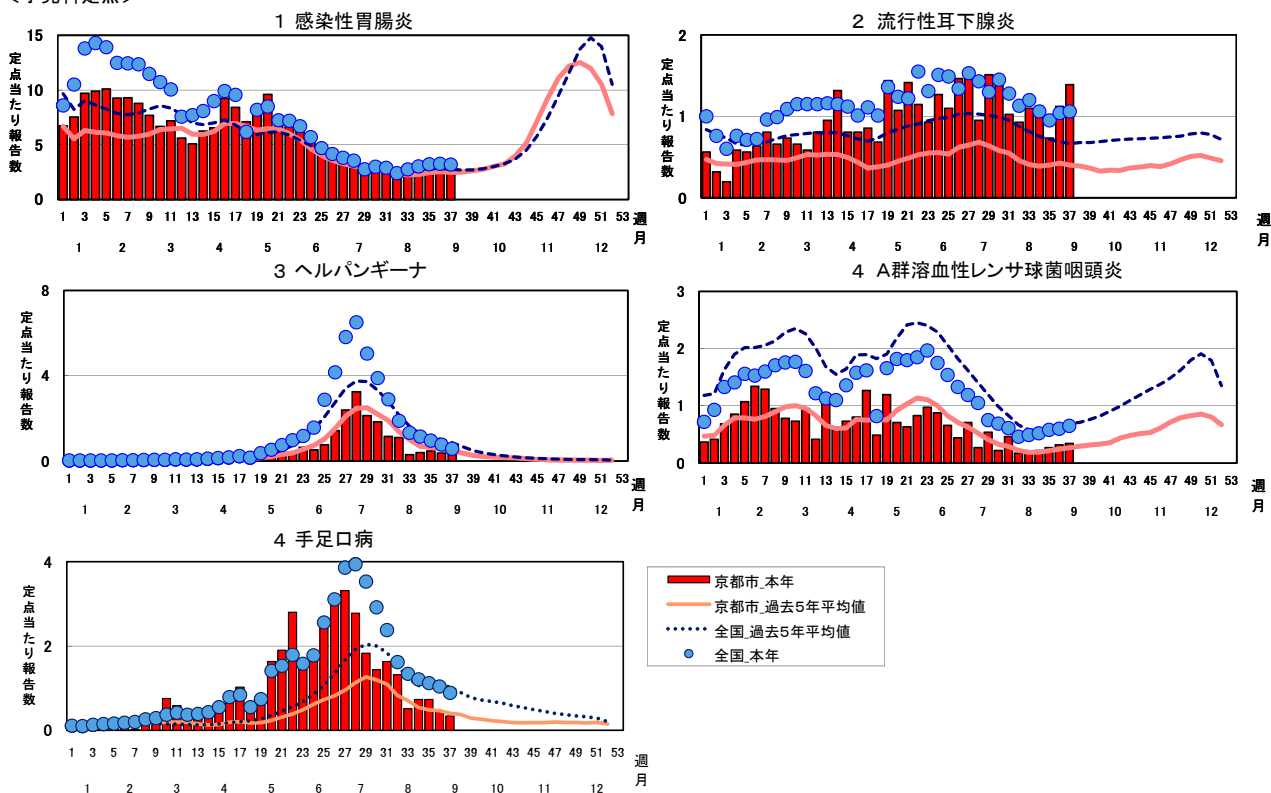


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



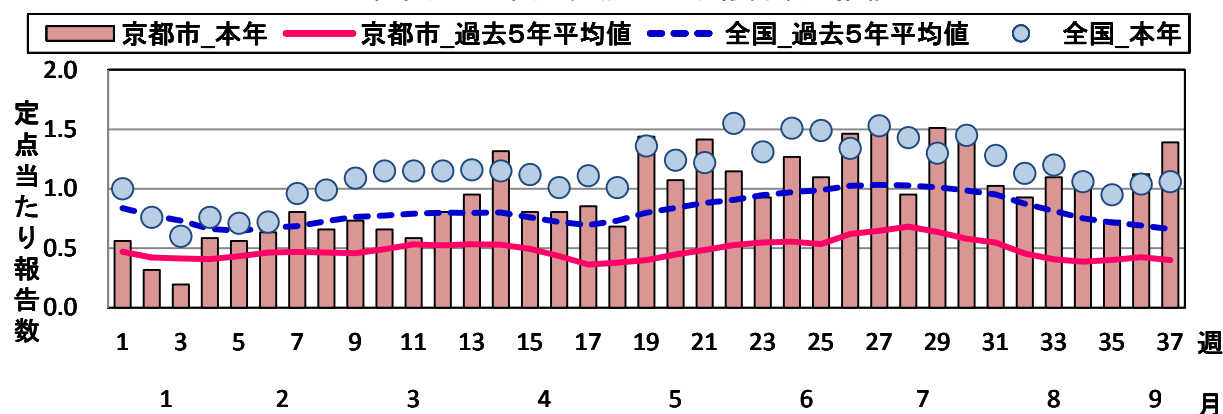
第37週(9月13日～9月19日)トピックス:＜流行性耳下腺炎＞

流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、1.39(57例)で、依然として過去5年平均値を大きく上回っています。

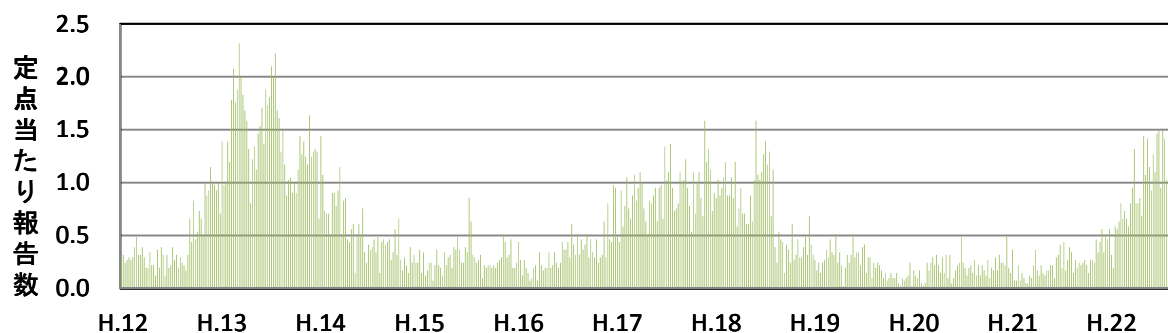
過去10年間(平成12年から平成21年)の定点当たり報告数は、数年周期で増減しています。本市及び全国ともに、本年第4週以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。今後も、動向に注意してください。

年齢階級別では、4歳が13例(22.8%)と最も多く、次いで3歳が12例(21.1%)、5歳が10例(17.5%)で、3歳～5歳が61.4%(35例)を占めています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



定点当たり報告数の推移(平成12～平成22年第37週)



年齢階級別定点当たり報告数の推移

